

環境会計

環境経営を推進するために、
環境保全に要したコストとその効果を算出・検証しています

環境会計の開示

サントリーは、環境保全活動の効果を定量的に評価するツールの一つとして、環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」に準拠した環境会計を開示しています。

2005年度の評価と分析

2005年度は、排水処理および省水対策などで環境投資額が若干増加しましたが、環境費用額については過年度に実施した設備投資の償却が完了したため減少しました。

経済効果については、新たに稼動したコジェネレーションシステムにより燃料消費量が増加したものの、電気の削減につながりました。

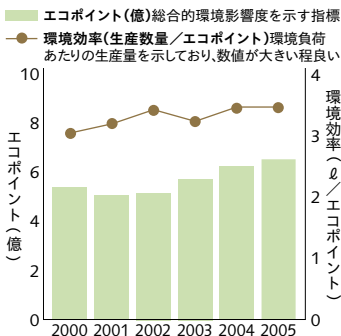
今後は、集計対象の見直しや開示方法の工夫を検討していく予定です。

「JEPIX」で環境効率を評価

サントリー全工場の2000年度から2005年度までの環境効率の推移をJEPIX※を利用して評価しました。その結果、工場新設などが影響した2003年度を除き、2000～2005年度は改善傾向が認められています。

※ JEPIX (Japan Environmental Policy Index: 日本における環境政策優先度指数) 各種環境負荷のそれぞれに重み付けを行い単一評価指数として評価する手法です。「文部科学省21世紀COEプロジェクト(国際基督教大学)」の「一環としてJEPIX指標実践のために開催されたJEPIXフォーラムに2003年から参画しています。

環境効率の推移



▶ サントリー単体の環境保全コスト (対象期間:2005年1月1日～12月31日)

(百万円)

項目	2004年度		2005年度	
	環境投資額	環境費用額	環境投資額	環境費用額
公害防止コスト ●水質汚濁防止・大気汚染防止 他	34	1,266	102	978
地球環境保全コスト ●CO ₂ 回収 ●省エネルギー ●コジェネレーション ●嫌気処理 他	318	1,195	231	787
資源循環コスト ●再循環による節水 ●汚泥減量化 ●廃棄物再資源化 他	43	1,325	156	1,269
計	395	3,786	489	3,034
上・下流コスト ●容器包装の再資源化委託料 ●環境対応容器包装対策 他	0	1,088	0	1,065
管理活動コスト ●社会教育、EMS構築 ●CSRレポート、展示会 ●天然水の森 他	41	628	33	632
研究開発コスト ●廃棄物情報システム 他	0	12	0	36
社会活動コスト ●緑化、愛鳥活動 他	0	208	0	153
環境損傷対応コスト	0	0	0	0
合計	436	5,722	522	4,920

(注) 1 投資額: 投資目的の50%以上が環境保全を目的としたものは全額環境投資とみなしました(検収ベース)。

2 償却費: 投資の50%以上が環境保全を目的としたものを過去5年間さかのぼり一律10年間の定率償却としました。

3 直接把握が可能な管理活動・社会活動・研究活動の費用は原則として全額を直接把握しました。直接把握が困難な費用については、工程別に過去の実績調査に基づいた比率で按分・配賦しました。

▶ グループ会社の環境保全コスト

(国内主要25社)

(百万円)

2004年度		2005年度	
環境投資額	環境費用額	環境投資額	環境費用額
377	2,612	17	2,500

(注) 2004年度に発生した公害防止コスト(排水)関連投資が一巡し、2005年度の環境投資額は減少しています。

▶ サントリー単体の環境保全効果 (対象期間:2005年1月1日～12月31日)

項目	単位	2004年度	2005年度	原単位ベースでの 対前年度削減効果			
公害防止	汚染物質 排出量削減	SO _x	総量(t) 25	25	▲0t		
			原単位(g/kℓ)	11		11	
	NO _x	総量(t)	110	102	9t		
			原単位(g/kℓ)	50		46	
地球環境保全	CO ₂ 排出量削減	CO ₂	総量(千t) 228	233	▲3千t		
			原単位(kg/kℓ)	104		105	
	エネルギー 消費量削減	燃料		原油換算(kℓ)	66,105	71,761	▲5,036kℓ
				原単位(ℓ/kℓ)	30	32	
		電気		総量(千kWh)	211,411	211,243	2,150千kWh
				原単位(kWh/kℓ)	96	95	
資源循環	水資源 使用量削減	用水	総量(千m ³) 16,144	16,456	▲160千m ³		
			原単位(m ³ /kℓ)	7		7	
	廃棄物 排出量削減	副産物廃棄物 排出量		総量(t) 159,206	156,520	4,178t	
			原単位(kg/kℓ)	73	71		
再資源化率		(%)	100.0	100.0			
輸送量削減	輸送量(重量×距離)	(百万t・km)	1,457	1,439	37百万t・km		
	CO ₂	(千t)	97	95	3千t		

(注) 本年度から「CO₂排出量削減」は「地球環境保全」に、「水資源使用量削減」は「資源循環」の項目にしています。

▶ サントリー単体の経済効果

(百万円)

項目	2004年	2005年
リサイクル(副産物売却)収入	96	84
省エネルギーによる費用削減額	259	▲306
廃棄物処理費用削減額	▲85	▲164

(注) 経済効果は、実際の金額で把握可能な項目(リサイクル収入、省エネルギーによる費用削減、廃棄物処理費用削減)に限定しました。

2005年度の実績・評価

2008年度の中期目標達成に向けて、
単年度ごとに実績評価を行い、次年度の活動計画につなげています

2005年度の活動を振り返って

2005年度は、CO₂排出量の削減を重点推進課題として位置付け、ビール工場でのコジェネレーションシステムの拡大などに取り組みましたが、食品工場での生産量増加、PETボトルの自社成型（インプラント）稼働による燃料・電力の増加が主要因となり、全体でのCO₂排出量は原単位で前年比1%増、総量で2%増となりました。

2006年度以降は、中期（2008年度）計画として決定された、京都議定書において事業者に求められるCO₂排出総量の削減目標達成に向け、各生産工場での燃料転換をはじめとする設備投資・対策を、計画に基づき確実に推進してまいります。

取締役 環境部担当 小嶋 幸次

重点推進課題	2005年度目標	2005年度実績
1.環境マネジメントシステム構築	<ul style="list-style-type: none"> 本社・お台場オフィスでのISO14001認証取得に向けての活動開始 グループ会社における環境e-ラーニング展開 	<ul style="list-style-type: none"> 国内グループ会社4社であらたにISO14001の認証を取得 本社・お台場オフィスの2006年度認証取得に向けた部署を環境部内に設置 国内グループ会社中32社、1,696名が環境e-ラーニングを受講、内1,527名が修了（修了率90%）
2.エコプロダクツ開発	<ul style="list-style-type: none"> エコプロダクツの継続的開発（容器軽量化・リサイクル容易化の推進） 	<ul style="list-style-type: none"> 2005年度PETボトル軽量化比率 76%（2004年度は61%） サントリーのPETボトルの本数の4分の3以上が軽量ボトルとなりました 食品2工場でPETボトル自社成型（インプラント）を開始し、輸送時の環境負荷を低減
3.省資源・省エネルギー・地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> ユーティリティ原単位： 各工場前年度比1%以上削減★ 用水原単位のさらなる削減への研究★ CO₂排出原単位： 各工場前年度比1%以上削減（燃料転換による改善を除く目標）★ 燃料転換によるCO₂削減推進★ 	<ul style="list-style-type: none"> 原単位前年度比 燃料：8%増加（90年度対比52%削減）★ 電気：1%削減（90年度比45%削減）★ 用水：増減なし（90年度比45%削減）★ CO₂排出原単位前年度比：1%増加（90年度比53%削減）★
4.グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> 国内主要グループ会社・海外事業所での実施 	<ul style="list-style-type: none"> 事務用品におけるグリーン商品購入金額比率 85% 事務用品におけるグリーン商品登録比率 83% ネット購買システム導入グループ会社拡大社数 4社（計28社）
5.廃棄物の減量化・再資源化	<ul style="list-style-type: none"> 工場廃棄物・副産物再資源化率 100%の維持★ 本社・お台場オフィスの廃棄物再資源化率2%改善★ 食品廃棄物再生利用等実施率 20%以上（2005年10月段階での単月達成） 	<ul style="list-style-type: none"> 工場での再資源化率 100.0%を維持★ 工場・研究所計25ヶ所を対象に「廃棄物適正処理検討会」を実施 本社・お台場オフィスでの再資源化率 97%（前年度比2%改善）★ 外食グループ会社での、10月時点食品廃棄物再生利用率20%の目標未達成
6.容器リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> 効率的・実効的な容器リサイクルシステムの構築推進 	<ul style="list-style-type: none"> 容器包装の各素材別リサイクル促進団体に加入し、市場でのリサイクルシステム高度化を推進
7.環境コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 社会・環境活動情報の積極的開示 	<ul style="list-style-type: none"> 「サントリー CSRレポート2005」を発行 第9回環境報告書賞「サステナビリティ報告書賞」（主催：東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム）にて優秀賞受賞 「エコプロダクツ2005」に出展、昨年に引き続き次世代教育を主眼としたブース作りを行い、1万人を上回る皆様にご見学いただくことができました 多様なステークホルダーの方々とダイアログを実施
8.社会的活動	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した水源保全活動の拡大 次世代教育の推進強化（「森と水の学校」「エコキッズノート」の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県「湯の峰」、長野県「塩尻」にて地域連携の森作り制度に参加「天然水の森」（サントリーの森林保全活動推進地域）は合計8ヶ所となる 大阪府・京都府「天王山」、京都府「西山」で自治体、NPO、学識経験者、地域の皆さんと森林整備の協議会を設立し、保全計画に則り整備活動を開始 全国各地の「天然水の森」など5ヶ所で、従業員およびその家族約250名、地域ボランティアの方110名が参加し、枝打ち等の森林保全活動を実施 九州熊本工場が第19回「肥後の水資源愛護賞」（主催：（財）肥後の水資源愛護基金、熊本日日新聞社・熊本県）を受賞 2005年度「森と水の学校」参加者約1,400名（開校以来累計3,000名のこどもたちと保護者の皆様にご参加いただいています） 「エコキッズノート」9万部を全国の小学校を中心に配布。第5回「消費者教育教材資料表彰」（主催：（財）消費者教育支援センター）にて印刷部門「優秀賞」を受賞

※ 目標・実績はグループ全体。ただし、★はサントリー単体の目標・実績 ●原単位とは製造1kgあたりの購入量・使用量・排出量を表す



サントリーの環境活動は「ecoship」

サントリーでは環境に対する取り組みを「エコシップ」と名付けて活動しています。エコシップ。「エコの気持ち」ですべての活動を行っていききたい。緑の地球に「e・c・o」で目と鼻を描いたマークとともに、すべての活動に「エコシップ」を貫いていきます。

- 目標を達成することができました。
- 目標達成が70%以上です。
- 目標達成が70%未満です。

掲載ページ	評価	2006年度目標	中期目標(2008年度) 2003年12月改定
P.45~47 P.67	●●	<ul style="list-style-type: none"> ●本社・お台場オフィス・九州熊本工場でのISO14001認証を取得 ●国内グループ各社でのEMSレベルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外事業所を含むサントリーグループ全体での環境マネジメントシステム稼動・環境経営度向上
P.57~58	●●●	<ul style="list-style-type: none"> ●エコプロダクツの継続的な開発(容器包装における3R推進) 	<ul style="list-style-type: none"> ●容器対応を中心としたエコプロダクツ開発を継続的に推進
P.51~56	●	<ul style="list-style-type: none"> ●ユーティリティ原単位: 各工場前年度比1%以上削減★ ●用水削減研究継続★ ●CO₂排出原単位: 各工場前年度比1%以上削減★ (燃料転換による改善を除く削減目標) ●燃料転換によるCO₂削減推進★ 	<p>ユーティリティ原単位※</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%;"> <p>燃料 2003年度比5.6%削減★ (1990年度比では56%削減) 原単位(ℓ/kℓ)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>電気 2003年度比8.1%削減★ (1990年度比では46%削減) 原単位(kWh/kℓ)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>用水 2003年度比5.5%削減★ (1990年度比では46%削減) 原単位(m³/kℓ)</p> </div> </div> <p>CO₂排出原単位 2003年度比11.9%削減★ (1990年度比では57%削減) 原単位(kg/kℓ)</p>
P.61~62	●●	<ul style="list-style-type: none"> ●国内主要グループ会社での実施 ●ネット購買システム導入社数拡大 ●グリーン購入ガイドラインの改定 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外を含む全事業所で実施
P.53~54 P.64	●●	<ul style="list-style-type: none"> ●工場廃棄物・副産物再資源化率100%の維持★ ●本社・お台場オフィスでの再資源化率1%改善★ ●外食グループ会社での食品廃棄物再生利用等実施率20%以上達成とさらなる推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●工場廃棄物・副産物再資源化率100%の維持★ ●本社・お台場オフィスの廃棄物再資源化率100%の達成・維持★ ●食品廃棄物再生利用等実施率20%以上の達成・さらなる推進
P.59~60	●●●	<ul style="list-style-type: none"> ●効率的・実効的容器リサイクルシステムの構築推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●効率的・実効的な容器リサイクルシステムの構築推進
P.68	●●●	<ul style="list-style-type: none"> ●社会・環境活動情報の積極的開示 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会・環境活動情報の積極的開示
P.65~68	●●●	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と連携した水源保全活動の拡大 ●お客様向け環境情報提供・次世代向け環境教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と連携し、地球環境保全の活動を多面的に展開

※ 2004年度より、燃料・CO₂の2008年度中期目標および過年度実績の原単位算出方法を以下のとおりに変更しています。
 ①燃料:A重油換算から原油換算に変更 ②CO₂:燃料・発酵・工程・排水由来から、燃料・電力由来に変更